

現代
俳句

いわて

発行 令和四年十二月二十日



岩手県現代俳句協会 No.80

岩手県現代俳句協会

年会費ご納入のお願いについて

当会の年会費は、例年総会の当日ご納入をお願いしているところですが、予め左記をご参考に、令和五年四月末頃をめぐりにご協力くださいますようお願い致します。

一、令和五年度年会費

二、〇〇〇円

二、◎振込の場合

岩手銀行本店・普通預金

No.1155476

口座名：岩手県現代俳句協会

会長 名久井清流

◎現金書留又は

定額小為替送付の場合

〒〇二〇一〇一三五

盛岡市大新町七の二〇

五日市明子方

岩手県現代俳句協会会計担当宛

〈参加してみませんか〉

現俳の本部協会員の方へ

（会員誌『現代俳句』が毎月お手元に届く方）

会員の交流欄「現代俳句の風」

に参加しませんか。作品募集中です。最近一年間の作品から四季各一句を専用ハガキで送ると、無料で全句と氏名が年間を通じ必ず掲載されます。締切一月二十日。詳細と専用ハガキは『現代俳句』十二月号の巻末を参照ください。本部協会員への入会も募集中です。

編集後記

この会報誌も今年で八十号となった。記念号との意味を込めて、「今年的一句＋コメント」欄を久しぶりに復活。皆様から原稿を募ったところ、会員五十名のうちほぼ八割の方がご参加くださった。…通信句会よりも多い！

皆様に感謝申し上げます。

来年こそは対面式の句会を実施したいものです。皆様がどれだけ若返ったか、この目で確かめますよ。（明子）

令和四年十二月二十日発行 第八十号

発行人 名久井 清流

編集人 五日市 明子

発行所 岩手県現代俳句協会

〒〇二〇一〇一三五

岩手県盛岡市大新町七の二〇

五日市 明子方

電話〇一九（六四五）七四三六

岩手現俳今昔

岩手県現代俳句協会副会長 大澤 保子

本年もコロナの感染が危惧され、宮城県開催の「現代俳句東北大会」が中止となり、募集句のみの大会となりました。その様な中で、現代俳句協会長賞を、小野寺東子さんが受賞されました。

「まつさらな空に手を入れ剪定す」

お目出度うございます。北国の広大な風土を日常生活を通して豊かに大きく詠まれています。

東北大会について…。以前は一泊の吟行会を計画する県もありました。青森の時、仏ヶ浦吟行…とあり、参加を希望しましたが、当日は荒天のため欠航となり市内観光になってしまいました。

この六月に、市野川隆さんが逝去されました。「鷹」
「岳」「草笛」で活躍されました。岩手現俳では年に

一度、県内を吟行し、地元の会員の方々と交流を深めた時期がありました。

花巻の吟行会ときは、市野川さんが賢治の世界を案内して下さりご自宅を句会場に解放して下さいました。「牛蒡掘り」の句で「鷹」賞を受賞され、

「晩年は草になるまで草を取る」は令和元年の作品です。心より御冥福をお祈り致します。

今年も残すところ僅かとなりました。事務局の尽力で本年も通信句会を継続することが出来、第七回となりました。沢山の仕事を抱えながらの御苦労はたいへんな事と、感謝の気持ちでいっぱいです。

来年は、穏やかな生活に戻れます様に、皆様にお会い出来ます日を楽しみにしております。

令和四年度総会記

五日市 明子

三月下旬に開催を予定していた令和四年度役員会及び総会は、新型コロナウイルス感染症拡大への懸念から、いずれも中止とした。役員には三月二十二日付文書と共に総会資料を送付し役員会に代えた。一般会員には三月二十九日付文書と共に同資料を送付し総会に代えた。よって同資料の内容の報告を以て総会記とする。

コロナ禍による総会の中止は三年連続となった。次年度は従前通りの開催ができるよう願っている。

(1) 令和三年度事業報告

- 第二回通信句会 二月 参加者三十二名
- 第三回通信句会 五月 参加者三十一名
- 第四回通信句会 八月 参加者二十三名
- 現代俳句東北大会（岩手大会） 九月二十五日
募集句の部のみ実施

『現代俳句いわて』七十九号発行 十二月二十五日

(2) 令和三年度一般会計及び特別会計決算報告

経費節減により特別会計に十万円繰入れ計上できた

(3) 同、会計監査報告 適切な処理の報告

(4) 令和四年度事業計画（案）

春期・夏期・秋期の各句会（または通信句会）

「現代俳句いわて」八十号発行

(5) 令和四年度一般会計予算（案） 特別会計予算（案）

(6) 令和四年度の規約と役員体制（案）

(7) 新会員紹介

- 太田 加留子（盛岡）
- 中村 セイ子（奥州）
- 三浦 寿子（一関） 以上三名

(8) その他

第三十五回現代俳句東北大会（岩手大会） 収支決算書

右記の各議案は書面議決にて承認された。

第五回通信句会作品抄

令和四年三月 参加者三十五名 一〇五句

鎌倉 道彦 選

特選 草に寝て五体ゆるみし春の昼
 秀逸 頭ひとつ親の背を越し卒業す
 秀逸 縄電車春泥渡り小川まで

三浦しおり
 牧原美喜子
 澤藤はなの

佐藤 レイ 選

特選 寝まりたる牛さながらに残る雪
 秀逸 菜の花を茹でてわたしきれいになる
 秀逸 春夕焼身ごもるやうに雑木山

名久井清流
 夏谷 胡桃
 大澤 保子

名久井 清流 選

特選 先生のきれいな楷書卒業す
 秀逸 菜の花を茹でてわたしきれいになる
 秀逸 四ヶ月やためしの宝くじを買ふ

四戸美佐子
 夏谷 胡桃
 小菅 白藤

四戸 美佐子 選

特選 水ぬるむ洗ふでもなく手を入れて
 秀逸 パンジー植う祈りを青と黄に託し
 秀逸 ものの芽に触れなば指の濡るること

安部 克詠
 さいとう白沙
 大石 文雄

安部 克詠 選

特選 雪解星難民の子ら眠りしか
 秀逸 春塵や手の老斑をいとおしむ
 秀逸 菜の花を茹でてわたしきれいになる

千葉 任子
 中野 楓子
 夏谷 胡桃

互選高句

水ぬるむ洗ふでもなく手を入れて
 紙漉きの木槌打つ音梅ひらく
 先生のきれいな楷書卒業す

安部 克詠
 夏谷 胡桃
 四戸美佐子

大石 文雄 選

特選 頭ひとつ親の背を越し卒業す
 秀逸 初音はや手練のやうに響きけり
 秀逸 草に寝て五体ゆるみし春の昼

牧原美喜子
 五日市明子
 三浦しおり

第六回通信句会作品抄

令和四年六月 参加者三十一名 九十三句

鎌倉 道彦 選

特選 ソーダ水見つめ別れの二人かな 田代 節子
秀逸 訓練の白帆のものがき大南風 さいとう白沙
秀逸 組板を干して留守なり五月晴れ 大石 文雄

佐藤 レイ 選

特選 夏至の日のこの太陽を瓶詰めに 夏谷 胡桃
秀逸 父の日や子が来て父となつてゐる 安部 克詠
秀逸 夏椿ぼたり白線の残像 四戸美佐子

四戸 美佐子 選

特選 夏空を引き摺ってへり着陸す 小野寺東子
秀逸 庭師らの昼餉土蔵の片蔭に 小野寺東子
秀逸 廃屋の塵にレシート油蟬 鎌倉 道彦

互選高句

二歳には二歳の理屈夏帽子 四戸美佐子
父の日や子が来て父となつてゐる 安部 克詠
胸元に飯粒からび終戦忌 大澤 保子
駐在所いつもがら空き麦の秋 武田 稲子

名久井 清流 選

特選 なめくじの戦時の闇をまだまとふ 小菅 白藤
秀逸 通し鴨今さら生き方変へられぬ 澤藤はなの
秀逸 酷暑の猫うでまくりしていいんだよ 五日市明子

大石 文雄 選

特選 二歳には二歳の理屈夏帽子 四戸美佐子
秀逸 蟬時雨光あるのか選挙戦 佐藤 レイ
秀逸 通し鴨今さら生き方変へられぬ 澤藤はなの

小野寺 束子 選

特選 二歳には二歳の理屈夏帽子 四戸美佐子
秀逸 訓練の白帆のものがき大南風 さいとう白沙
秀逸 通し鴨今さら生き方変へられぬ 澤藤はなの

今年の一旬十コメント

(五十音順)

風化せし和算の石碑一葉落つ

稲玉宇平

一関は古より和算の盛んな土地柄であった。どんな経緯で何時頃建立したのか、路地裏に訪う者もなく石文が一基。世の変転を思う。

小鳥くる誰かが呼んだやうにくる

安部克詠

草庵の裏の土手に、山雀、四十雀、小雀など一斉に来てはらばらと土手に落ち、餌をさがす。それは誰かが呼んだのか？と思う程だ。

たんぽぽや笑えばずれる子の重心

及川真梨子

事務仕事や環境の変動にやっと慣れてきた一年でした。この年齢でも新しくできることが一つずつ増えるので嬉しいです。

空蟬を拾ひ集めて窓の辺に

阿部熙子

今年の春は低温の日が続き、梅雨季の雨は降らず、豪雨が多く、地震と同じに避難の警報が何度もあった異常気象にコロナ禍の年でした。

蟻の列一兵たりし兄の墓

大石文雄

「青岬」主宰・衣川次郎先生評。蟻の列は軍隊の隊列のようだ。そして不条理な死。戦争の本質を衝いて、悲しみだけでなく怒りもこもる。

もの思ふ木もあるならむ雪しんしん

五日市明子

現俳本部と地区協会とでオンライン会議を、というので重い腰を上げた。技術面は子の手を借りて初挑戦。何とか参加できた。

葉桜となり山脈へ還りゆく

大澤保子

高台に棲む様になり三十年が経ちます。周りの自然と向き合うことをしないまま過ぎてしまい、この句が出来て少しほっとしています。

流れゆく雲は花野に影落し

伊藤晴子

ゆうゆうと雲は花野に影を落してゆく。一瞬花野は暗くなるけれど雲が去るとまたぱっと花野は明るくなるそんな光景を写してみました。

ウクライナの慟哭聞こゆ春風

太田加留子

理不尽なロシアの侵攻によりウクライナの国土は破壊され人々は恐怖のどん底に落とされ未だ終結の兆しもなく誠に心の痛む出来事でした。

鹿踊うち振る角に祈りあり

小笠原 祐子

花巻まつりの鹿踊を初めて見て、詠みたいと思いました。角川大歳時記に秋の季語として掲載されていて挑戦しました。

蛇出づる己れの影を消しながら

小野寺 束子

一同に会しての句会は出来ず紙上句会でした。紙上句会はほぼ全員の方が参加出来たのでこの点は良かったように思います。

山紅葉いずこを行くも瞳を瞠り

小原 きよ

久しぶりの悴の誘いに遠出した。体調も余り良くないはずなのに、無理しなくても、と言いつつも嬉しい一日だった。

生き継いで津波太郎に春の虹

金澤 洋子

十年一昔といいますが、あの大津波から十年以上の時が過ぎました。こうして、今、ここにある事を幸に思います。

行合の空を眺めてティータイム

熊谷 勅子

私は空を眺めるのが好き。二階の部屋から空は、とても広く美しい。電線に雀が並ぶ。電柱にカラスが止まる。朝、心が動き出す。

わらひながらいくさの国の白鳥来

小菅 白藤

着水するときの白鳥の声。戦禍を逃れ、長旅を無事終えた安堵の気持の表現と聴きとることが出来た。

鎮魂と不戦の祈り大花火

さいとう 白沙

怠けている内に一年が過ぎようとしています。来る年に備え、気持ちを引き締めているこの頃です。

車のキズ勲章と決め風光る

佐藤 恵子

体調がよくならないで冬を迎えた。何とか句会にも出席できるようにしたい。家の中の仕事は何とか…続けてゆきたいが…。

麦秋や歌好きの民歌うたへ

佐藤 曲水

ウクライナの人たちは歌好きです。早く大国の侵攻をしりぞけて、楽しく歌が歌える日のくることを祈っています。

天高し餃子に羽が生えている

佐藤 レイ

生まれ変わるなら鳥になりたいと思った事がある。秋天を見ると羽があつたら…:…と思うことから、餃子にさえ羽があるのにと。

鍵いらぬ農家の暮し芋茎干す

澤藤 はなの

切り取った里芋の茎を貰い、芋茎に挑戦しました。子供の頃を懐かしみ、味噌汁にしましたが、母の味には及びませんでした。

赤とんぼ死んでまだまだ飛ぶ形

四戸 美佐子

毎週三句投句のネット句会をなんとか続けている。それがないと俳句は遠いものになっていたと思う。なので来年も頑張る！

やはらかく古墳ふくらむ芽吹きかな

下田 榮一

雑木林の中の古墳。周辺の木々は冬眠中。日当たりのよいところの古墳は、ひと足早く春到来といたいだが、まだ春は遠い。

熊出づと注意うながす警報車

高井 武子

里山のこの地に移住し早や三年。熊の出没は、今迄聞かなかったが突然の警報に驚いた。今年は街中まで、出沒しているとのこと。

戦止めよみんな仲間さ鱗雲

武田 稲子

コロナ禍、戦禍、向う側の見えないトンネルに入り込んでしまった。いつ終息するのか、マスクの不用の時がいつ戻って来るのか……

自転車籠にラケット紅葉降る

田代 節子

桜並木のある高校の側に住んでいた頃、高校生の弾むような明るい声をよく耳にしていました。眩しい思いで見てもいました。

空蟬を並べる日々や休み疾く

千葉 任子

庭の高野槇に空蟬を発見。少年のように窓辺に並べて逝く夏を惜しんだ。俳句は時の経過を詠むのが難しいが「疾く」を得て表現できた。

しぐるるや縁を探す刻銘碑

千葉 百代

東日本大震災の犠牲者が十一年を経て、陸前高田市に刻名碑として建設された。未だ遺体の見つからない本家の女子の名を探した一句。

ゴルフボールほどの軽鳧の子走りけり

豊山 れい子

テレビで毎日のように鴨の子を見ましたらかわいくて俳句に書きたくなりました。無事に成長できたか心配しています。

冬に入る言葉の迷路深くなり

中野 楓子

単純極まりない人間が、俳句を詠む等と言うことは、大変な事だと今更ながら感じています。何とかゆつくり楽しめたいです。

砂利道はたんぼの道だから好き

中村 セイ子

祖父、父、母、夫と、代々北上川の水位観測員だった我が家。その道を歩くのが好き。ずーと見守られて来た、たんぼの道だから……

読点のごと雪原に鴉ゐる

名久井 清流

今年も言うべきか、このコメントを書くために句帳を繰って見て溜息をついた。何とも収穫の無い一年であった。来年こそは……。

菜の花を茹でてわたしきれいになる

夏谷 胡桃

第三十六回現代俳句東北大会で佳作をもらった句です。茹でると菜の花が透きとおってきれいでした。わたしも浄化された気持ちになりました。

真暗闇の中に咲いてる彼岸花

新山 のぼる

「見えないものでも見える時がある」と言うテレビドラマのセリフがあった。この句も同じ思い。

焼焦げし星ばかりなり天の川

照井 翠

退職が近づき、今のこの一瞬一瞬をしっかりと心に刻みつけようと自らに言い聞かせている。かわいい生徒たちと、三月にはお別れだ。

黄落や母逝きし日のまざまざと

牧原 美喜子

この季節になると独り逝かせた母を思い出す。喪服を取りに落葉を浴びながら車を走らせた。なぜか涙が出なかった。今年は二十三回忌。

夏来たる防潮堤を乗り越えて

三浦 しおり

この頃、俳句への情熱が薄れてきたように思う。老化現象なのか？ 子供のように小さな事にも感動する心がほしい。

道訪へば訛ゆかしや小鳥来る

三浦 寿子

北上へ初めて一人で行きました。道を教えてくれたお婆さんの訛言葉に暖かさや優しさを感じ心がほっこり幸せな時をいただきました。

名人の建具の滑り寒の明

三浦 百合子

築五十余年の家の建具は、有名なY店のもの。冬の朝さらりと襖を開けたとき、やわらかな日差しに春の予感が広がってきた。

新緑の雫こらへて閃光す

四日市 洋子

草笛年次大会募集句で、さいとう白沙先生に選んでいただいた記念の句。五月焼走り吟行で、前夜の小雨に清しい新緑、感動の一句。

大会受賞作品抄

◎第三十六回現代俳句東北大会（宮城大会）募集句

現代俳句協会賞

まつさらな空に手を入れ剪定す 小野寺 束子

福島県現代俳句協会賞

別冊のような八十路の夏が来た 武田 稲子

佳作賞

菜の花を茹でてわたしきれいになる 夏谷 胡桃

隠し田のほうたる低くひくくとぶ 伊藤 晴子

◎岩手県俳句連盟第四十一回県下俳句大会 募集句

連盟大会賞

冴え返るマトリョーシカの哀しい目 武田 稲子

優秀賞

和暦に農事欄あり種浸す 安部 克詠

◎第七十五回岩手芸術祭文芸祭

文芸祭賞

みちのくの背骨しるべに鳥渡る 四日市 洋子

優秀賞

本閉じるような死のありて邯鄲 四戸 美佐子

◎第七十五回岩手芸術祭「県民文芸作品集」

名久井清流 賞

祈り (五句) 四戸美佐子

◎第三十六回岩手県俳句連盟賞

優秀賞

雪の追憶 (二十句) 大石 文雄

秋つばめ (二十句) 小野寺束子

◎第三十回宮沢賢治生誕祭全国俳句大会

權 未知子 選・岩手日日新聞社賞

早苗田やふるさとどこも初々し 安部 克詠

白濱 一羊 選・花卷市教育長賞 豊山 れい子

ゴルフボールほどの軽兎の子走りけり 豊山 れい子

大畑 善昭 選・花巻俳句協会賞 三浦 寿子

振花や螺旋階段行くがごと 三浦 寿子

◎第六十四回啄木祭全国俳句大会 募集句

白濱 一羊 選・特選・人

鳥帰る人の戻らぬ嵩上げ地 大石 文雄

岡部 玄治 選・特選・地 大石 文雄

風たちてかたくり空に翔たんとす 大石 文雄

※紙面の都合により、五句、二十句の組作品は割愛しました。

◇新会員・作品と所感◇

転勤 太田 加留子

春風や家族一緒に住むことに
飛花落花しばしこの地に留まらむ
車窓より眺むる県境木の芽時
見晴かす大崎平野青田風
星流るいよよ故郷が遠ざかる

家族一緒に生活したいという夫の強い願望に負け、やむなく私は退職して転勤族の仲間入りをするようになりました。何度も職場に遅刻する夢をみたりして落ち着かない日々が続きました。幼い息子を連れて桜並木を散策したり、郷土料理を学んだりして、なんとか土地に馴染もうと努力をしてみました。しかし一年半で県外に転勤となり、夫はあわただしく赴任し、私は一人で夜遅くまで荷作りをしなければなりませんでした。

夫に「ここが県境、ここから宮城県だよ」と告げられた時はさすがに胸にこみあげてくるものがありました。ここでは息子にとって、ザリガニ取り、蝗取りなど楽しい体験もありましたが、小学校を三度も転校させることになってしまいました。それから何度か転勤がありそのたびに故郷が遠くなっていきました。

◇新会員・作品と所感◇

青春 中村 セイ子

春が来た草取り鎌のひとり言
青春を我が家に蒔いて孫帰る
昼顔やをさな友達まういない
満席の物干し竿の立夏かな
生きていますか昼寝の夫に問うてゐる

東稲山の麓の小さな村に産声をあげ、あつという間の七十数年。その村で、父は母に恋をし父の熱意に負け嫁いだと、生前母はよく話していたが、当時としては珍しく大恋愛だったよう。なので生粋の田舎育ちです。

俳句との出会いは、ある会合で隣合わせた方からのお誘いで、何故かすうーと句会の席におりました。指を折りますと早や十三年……。今は月一回の地元での句会を楽しんで居ります。

そんな中、ひよんな事から五日市さまと、お話しする機会がありました。「右手県現代俳句協会」を、知る事となりました。

お言葉に甘え、迷うことなく入会させて頂きました。北上川の大堤防に立ち、これからも東稲山と歩いて行きたいと思つて居ります。どうぞ宜しくお願い致します。

◆新会員・作品と所感◆

振花 三浦寿子

残雪や切絵のごとき南部富士
空青く樺の林や木の芽張る
げんげ田の土の匂ひやトラクター
宙を切り遺構の橋を初燕
振花や螺旋階段行くがごと

◆新会員・作品と所感◆

牛の里 四日市洋子

白菜を抱ふ正面岩手山
人よりも牛多き里冬に入る
山の端へ夕日押遣るばつたんこ
郭公やいざと言ふ日のみそ醬油
蟬生る縄文人の子子孫孫

この度、岩手県現代俳句協会に入会させていただきました。

一関の三浦寿子です。一関の俳句協会の小野寺東子さんのお誘いを受けお世話になる事となりました。成り行きで俳句を始めた事でもあり戸惑う事ばかりですが俳句協会の仲間の方々に支えられ今の私がいまです。句歴は協会にお世話になって六年、草笛にも参加させて頂き二年を迎えます。その中で俳句に出合えて良かった事があります。①物を良く観察する様になった事。②時間を上手く使える様になった事。③いろ／＼な方との出会いです。「明日は何があるんだろう。何が見えて来るんだろう。」とワクワクしながら句帳手に飛び回っている自分を想像しながら今日の日を大切に過ごして行きたいと思っっています。この様な私ですが皆様どうぞ宜しくお願い致します。

何もわからない儘に俳句を始めて七年目の弱輩者です。この度相当背伸びをして岩手現代俳句に入会させていただきました。

電子辞書に頼り苦作をしています。あるページに宇多喜代子先生が、紙の歳時記の魅力として、探し当てた季語のページの上下左右を同時に見られ、例句も楽しむことができ、歳時記により日本がいかに四季を中心として衣食住が成り立っているかがわかり、日本を知る為の百科事典であると語られています。歳時記のある生活として、いつもポケットサイズの歳時記を携帯しているとのこと。

この度、草笛の太田土男代表が、日本の里山の季語を優しく深く解説している「田んぼの科学」を上木されました。田んぼの四季を通して里山の生物の多様性に触れ、折折の懐かしい写真入り、歳時記として傍に置きたい一冊です。 青空の高々とある冬田かな 土男

❀ 〈岩手現俳 今年を振り返る〉 ❀

○令和四年度幹事会・総会・俳句会 ↓ 中止

○現代俳句東北大会（宮城大会） ↓ 募集句のみの大会

応募総数八三五句

○通信句会実施（三月・六月・十一月の三回）

各回とも三十名を越える参加者。通常の対面式句会に比べ二倍相当の数。新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、句会の形式（対面／通信）を判断するつもりだったが、全ての回を通信で行うことに……。

○第四回盛岡国際俳句大会吟行句会にて名久井会長が講師。

七月十八日、盛岡市中央公民館にて初心者クラス十名、句会経験者クラス十三名の市民が参加。

また、大会募集句の部において岩手現俳より次の五名の方が入選。（紙面の都合により作品は割愛します。）

太田 土男 選 入選——夏谷 胡桃

高野ムツオ 選 入選——夏谷 胡桃

小野寺東子

鎌倉 道彦

白濱 一羊 選 入選——太田加留子

○新入会員

四日市洋子（紫波郡）

悼

佐藤 千洋 様が一月ご逝去されました。

市野川 隆 様が五月ご逝去されました。

内藤 照子 様が九月ご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

岩手県現代俳句協会